

シナリオ 脚本家の箱庭

脚本製作者：Eber

難易度 ★★★☆☆

シナリオの特徴

キーパーソンを殺害し最終日を迎えさせない、キーパーソンは殺害できなくてもフレンドは容易に殺害できる内容です。全ての事件でキーパーソンが死亡する可能性があり、事件とは別にキーパーソンを殺すことのできる役職が2人います。

フレンドも2人守らねばならず、マイナスの存在が友好能力を使いにくくします。事件の犯人は不安臨界が低めで、容易に事件を発生させることができます。

男子学生は犯行前にミスリーダーの能力で不安カウンターを貯めることができますが使用すればルールが確定されやすくなります。できれば能力を使わずに不安カウンターを貯めておきましょう。

病院の事件は病院に暗躍カウンターがなくとも、クロマク的能力で発生直前に暗躍カウンターを置くことができます。

脚本家の勝利条件

- 1 主人公の殺害**
キラーの能力、病院の事件
- 2 キーパーソンの殺害**
キラーの能力、シリアルキラーの能力、殺人事件、自殺、病院の事件
- 3 フレンドの殺害**
シリアルキラーの能力、殺人事件、病院の事件

脚本家への指針

脚本家の勝利条件は複数あります。ループごとに異なる勝利条件を見せるといいでしょう。以下行動例となります。

1ループ目は3日目、4日目の殺人事件か6日目の自殺でキーパーソンの殺害を狙います。キーパーソンは少女のためルールYはまだ確定されません。

2ループ目は主人公たちはキーパーソンを事件から守るように動くはずなので、シリアルキラーにキーパーソンやフレンドを狙わせます。フレンドの公開が1人までならばルールXのマイナス13を隠蔽できます。可能ならばフレンドはサラリーマンを先に公開すると良いでしょう。ルールYもまだ確定されません。

3ループ目はキラーとクロマク的能力でキラーの暗躍カウンターから主人公の殺害を狙います。ルールYは確定されますが、マイナス13はまだ隠蔽できるでしょう。

4ループ目は今までの行動全てをちらつかせ、「全ては防げない」という状況を作り出すことを目標とすると良いでしょう。

非公開シート

ルールY	殺人計画	役職
ルールX1	潜む殺人鬼	ミスリーダー
ルールX2	マイナス13	キーパーソン
		シリアルキラー
		マイナス
		マイナス
		フレンド
		フレンド
		キラー
		クロマク

日数	事件	犯人
3	殺人事件	お嬢様
4	殺人事件	男子学生
6	自殺	女子学生
7	病院の事件	入院患者

公開シート

ループ回数	ループ日数	8
4	4	8
惨劇セット	Basic Tragedy	
使用マップ	(学校)	(都市)
相談	可	不可

日数	事件予定
1	
2	
3	殺人事件
4	殺人事件
5	
6	自殺
7	病院の事件
8	
9	
10	